

風水害から身を守る

台風

強風や大雨を伴った熱帯低気圧です。最大風速がおよそ毎秒17メートル以上になると「台風」と呼ばれます。



集中豪雨

狭い地域に数時間にわたって集中して降る豪雨です。発生予測が難しく、状況が急激に変化します。



「線状降水帯」が発生すると、大雨が長時間続く！

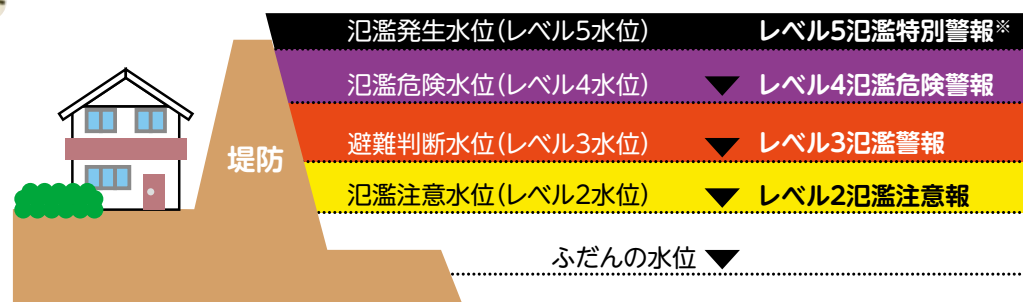
線状降水帯は、発達した雨雲（積乱雲）が次々と列をなして、同じ場所を通過または停滞することなどでつくり出される線状にのびる雨域のこと。雨雲が消滅せず、長時間にわたって大雨を降らせるため、浸水や土砂災害などが発生しやすくなる。



大河川の氾濫（洪水）

大雨などで河川の水が堤防からあふれたり、堤防が決壊したりして発生します。河川の水位の変化に応じてレベル3 氾濫警報などが発表されます。

● 河川の水位の目安



※水防計画に定められた河川は、河川管理者からの氾濫通報に基づくレベル5 氾濫発生情報が発表されます。



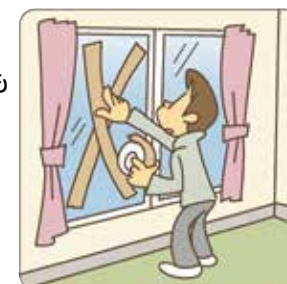
市街地などの氾濫（浸水）

大雨による地表水が下水道等の排水能力を超えたり、河川の増水などで排水がはばまれたりして住宅等が浸水する現象です。地下階や地下街などは特に注意が必要です。

風雨が強まってきたら

台風や大雨の被害が心配されるときは、安全第一に行動しましょう。

- 気象情報をこまめに確認する
- 不要不急の外出はしない。川や水路などに近づかない
- 家庭内から不必要な水を流さない（風呂水の排水、洗濯など）
- 飛ばされそうなもの、流されそうなものを片付ける
- 雨戸・窓を閉め、施錠する
- 窓ガラスの破損に備え、内側からガムテープを貼る。カーテンを閉める



- 停電に備え、懐中電灯、スマートフォン用充電器（電池式）などを用意する
- 貴重品、大切な家財などを高い場所（2階など）に移動させる
- 浸水に備え、水のうや土のうを準備する
- 非常持出品の確認、避難先・避難路の確認など避難の準備をする



風水害から安全に避難するポイント

● 安全な服装、荷物は最小限

動きやすい安全な服装で避難する。靴はひもでしめられる運動靴をはく。荷物は最小限にして背負い、両手が使えようにする。



● 隣近所で声をかけあい、早めに避難

隣近所で声をかけあって集団で避難する。子どもや高齢者などの要配慮者に気を配り、早めに避難する。夜間に大雨が予想されるときは、夕方までに避難を完了させる。



● 足元に注意する

濁った水で足元が見えず、ふたが外れたマンホールや側溝に転落する危険がある。長い棒をつえ代わりに使うなど足元に注意する。



● 浸水が始まったら、車で避難しない

冠水するとエンジンが停止する危険がある。浸水している場合は徒歩で避難する。

